

4 月例会報告

【日 時】3 月 27 日(月)19:00～21:40 筑波大学附属高校 3 F 会議室 → 22:00～2:00 カリンカ

【参加者】内田正人(B&D)、宇都宮徹彦(写真家)、川井寿裕(文部省スポーツ振興投票準備室)、北岡真幸(関西大学総合情報学・大学院)、窪田修(水産庁)、香西武彦(本田技研)、小金丸浩志(京華中高)、島原裕司(勁草書房)、鈴木崇正(NEC クリエイティブ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、浜村真也(サポティスタ)、広瀬一郎(電通)、福田晃広(スポーツ・メディアトレーナー)、三堀潔貴(都立北野高校)、六川亨(サッカーダイジェスト)

【新規参加者】秋山祐輔(アサツディ・ケイ)、前田博子(鹿屋体育大学)

【カリンカからの参加者】両角晶仁(文部省)、山戸一純(フットサルネット)、木暮知彦(フットサルオープンランキング)

注) 参加者は、所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

サロン 2002 : Ver2000～2001

中塚義実(筑波大学附属高等学校)

サッカー・スポーツ界で取り上げるべき話題は多々あるにもかかわらず、あえて「サロン 2002」そのものを 1999 年度最後の月例会にテーマとして取り上げたのは、2000 年度から新体制でスタートしたい意図からである。

本報告は、当日の内容をもとにしながら「中塚の感想・意見」を交えて再構成されたものである。今回は「結論」を求める会でもあったので、ここで導かれた結論と、その後の具体的な動きについてもあわせて報告に含めた。

なお、個々の資料がほしい方は、中塚までご連絡下さい。

I. サロン 2002 の歴史

資料：「サロン 2002 のこれまでとこれから」(1999.1.29.月例会資料)

資料：「社心グループの皆様へ」(1997.3.26.送信資料)・・・社心グループから新しい組織への提案

資料：「サロン 2002 これまでの活動」・・・第 1 回～第 39 回(今回)までのテーマ一覧

上記資料をもとにして、サロン 2002 のはじまりから今日に至るまでが説明された。

1. サッカー研究会・調査班時代～社心グループの誕生

サロン 2002 の前身は「社心グループ」であるが、さらにそのルーツをたどると、1970 年代～80 年代前半の、「サッカー研究会調査班」にたどりつくことになる。

JFA 科学研究部(現科学研究委員会)と、任意の研究会であった「サッカー研究会」の区別がなかった頃、サッカー研究会の一部門として「調査班」があった。これは、JFA の仕事(全国中学生大会出場チームの

活動実態調査など)を請け負うだけの調査機関だったのに対して、もっと主体的に調査・研究に取り組もうという意図で、社会学・心理学に興味を持つ研究者が「社心グループ」を組織したのが 1980 年代半ばのことである。筑波大学院生だった中塚は、この頃から、都内で行われている「サッカー研究会」に参加、「調査班」から「社心グループ」の過渡期に立ち会った。木幡日出男氏や江口潤氏がその頃からのメンバーである。

2. Jリーグの発足と「社心グループ」参加者の多様化

ほぼ定期的に(2 ヶ月に 1 回程度)お茶の水女子大学杉山研究室で勉強会をするようになった「社心グループ」は、サッカーの人文・社会科学に関する研究会として、当時でも珍しい会だった(と思う)。仲間意識も高く、研究会のネタが切れたときにはテニス大会をやって汗をかけた後カリンカへというパターンもあった。研究的な視点はなかなかよく、「サッカータレントの発掘方法に関する研究」や「Jリーグ観客調査」など、現在も続いている研究もある。当時の牧歌的な雰囲気を懐かしむ気持ちは、私もよくわかる。

この研究会に、1993 年前後から、様々なギョーカイの人がやって来るようになった。Jリーグ発足に伴うサッカー関連産業の発展とともに、かつてのサッカー少年が正しいサッカーおやじとして、サッカーを取り巻く分野で生き活きとよみがえったことがその理由として挙げられるだろう。「こんな話がしたかった」という人が、新たな人を呼び、「社心グループ」はにわかには研究会から多業種の懇談会の様相を帯びてきた。この頃から今日に至るまで、誰が誰を呼び、どのようにネットワークが広がっていったのかを探るだけでも、スポーツ社会学の研究テーマとなろう(3月 27 日は上智大でスポーツ社会学会があったので、その流れで参加された方もいました)。

従来からのメンバーにとっては、様々なギョーカイの方々との出会いは新鮮であった。もちろん、この頃参加されたギョーカイの方々にとっても、多くのメリットがあったろうし、自信となった方もいたに違いない。

3. サロン 2002 の誕生

このような状況にあって、杉山進氏(お茶の水女子大)から中塚に、「社心グループ」の会合を別の形でやった方がいいのではないかという提案が為された。それを受けた形で、1997 年 3 月 26 日に「社心グループの皆さまへ」の文書を送り、メンバーからの意見を集約して誕生したのが「サロン 2002」である。研究グループとしての「社心グループ」は「存続する」としていたが、実質的には活動休止状態である。しかし、今回の一連の検討会を経て、サロンのプロジェクトとして復活する道もあると考えている。

4. 大きなできごと—インターナショナル・フットボールフェスタについて

サロン 2002 は基本的に、「来る者拒まず、去る者追わず」の姿勢を貫いており、参加者は多様化する一方である。「方向性が見えなくなってきた」との意見は当初からいただいていたし、これだけの人材がそろっているこの組織で、何か社会に影響力を与えることはできないかということも当初から頭の中にあった。

そんな矢先、ある参加者が、横浜で少年サッカーのイベントをやりたいという話をもちこんだ。従来の

大会とは異なり、プロ選手との交流、横浜国際競技場での試合観戦、セミナーなどを含んだ、サッカーを文化として捉えたイベントにしようと、サロンでも何度か報告・議論された。しかし、サロン 2002 は「人と情報はあがるが金はない」。従って、距離を置きながら見守っていく方向性をとっていた。ところが知らない間にどんどん話が進んでいき、気がつけば、サロン 2002 が協力し、サロン関係者の多くが巻き込まれた形でのイベント開催となっていた。そして、これも当初から危惧されていたとおり、結果的に大きな赤字を出すことになり、1998 年末はこの対応で大わらわであった(無事解決しました)。

この一件からもわかるように、「開放性」に伴う「リスクマネジメント」は大きな課題である。また、サロン 2002 が事業に関わることの難しさを実感した。しかしその一方で、行うことによる副産物もあった。宇都宮氏の『サポーター新世紀』プロジェクトは、このイベントにおける写真展の開催がきっかけであったし、ここで結ばれたネットワークも多々あった。要は、関わり方である。

II. サロン 2002 の現状

資料：「サロン 2002 の現状」

資料：「サロン 2002 の将来検討会報告」

2000.3.27 現在、電子メールで 181 名、FAX サービスで 29 名の計 210 名に案内を送信している。
活動状況は以下のとおり。

1. 月例会

今回が 39 回目となった

2. メーリングリスト

松下徹氏が管理人となって 1999.5.24.開設。現在参加者 40 名、投稿総数 124 件。

松下氏の異動と、利用期限(5.17)が迫っていることもあって、契約者を中塚、管理者をそのまま松下氏として手続き変更中。なお、利用料金は、年 6300 円(税含む)。「カームコンピュータ株式会社 カームネットサービス事務局 Tel: 06-6233-5031 Fax: 06-6233-5032」のものを利用。

3. ホームページ

参加者にサロン 2002 の歴史を知ってもらう意味で作られたページ。このような主旨なので、ほとんど更新はされていない。<http://www.geocities.co.jp/Colosseum/4490/>

4. その他の活動

出張サロンで地方の方と交流したり、草サッカー・草フットサル大会などで交流したりしている

5. 関連するサロン

1) 軽茶会(宮城県塩竈市)

塩竈 FC 小幡忠義氏<shiogama@mtg.biglobe.ne.jp>主宰。今年は2月29日に行われている。

2) サロン 2002in にいがた(新潟市)

Aiilance2002 の活動の一貫として月例会開催。小島裕範氏<hironori_kojima@orix.co.jp>主宰

3) サロン・ド・トウカイ

東海地区。月例会及びホームページ。高橋義雄氏主宰

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~sports/salon/forum/index.html>

4) サロン関西

関西地区。3月23日に第1回開催。32名参加。当面は賀川浩氏の話聞く会として展開

<ディスカッション>

- ・プロジェクトが立ち上がり、独自に進んでいったときに、「サロン 2002 は最大の理解者としてサポートする」ことをどう捉えるのか。「協力・サロン 2002」は、どういう基準をクリアすればOKとなるのか
- ・プロジェクトの公認、出張サロンへの補助金拠出など、どのような判断基準と手続きを経るのか。意思決定機関、方法を明確化することが必要
- ・ゆるやかな組織である今の段階で、規約の形に落とし込む必要があるのかどうか
- ・サロンでできるプロジェクトとして、ワールドカップ開催自治体評価基準の作成が挙げられる。評価の基準が事前に明らかにされていないと"成功"したのかどうか検証できない。長野オリンピックの二の舞いにならぬよう、NGO が"勝手連"をつくって評価するのがよい。サロンでそれができないか
- ・写真展「サポーター新世紀」は、新潟で開催されて以降、滞っている(東京では個展の形であった)。この写真はサロンの財産でもある。これを活用できないだろうか
- ・例えば、「大人のためのサッカー教室」という事業をプロジェクト化するのではなく、「大人のためのサッカー研究会」という形での検討会ができると良いのではないか
- ・プロジェクトは個人営業の助けであってはならないが、個人が所有する財産・資源をうまく活用する観点重要
- ・サロン 2002 のアウトプットは「インフォメーション・レベル」までであって、それ以上はできないと考えればよい
- ・名簿には個人情報載る。載せたくない人はどうすればいいのか
 - 載せてもいい人が会員になる。あくまでも Give and Take の関係。「私は載せませんがあなたたちの情報はほしい」という形での入会はあり得ない。入会すれば、会員としてのメリットともに、会の当事者としての負担も負う。そのことを理解した上での入会となる

<結 論>

"志""会員""活動"についてはおおむねOK。しかし、サロン 2002 の"組織"、具体的には、1) 代表者 2) 会計 3) 意思決定機関(または手順)を明確化することが必要。

基本的には、これまでサロン案内を送信している 210 名を募集対象とするので、多少未整備の部分があったとしても、現段階で了解されている範囲で会員の募集をしてよい。4 月より募集開始。

未決定部分については、中塚が人選して検討会を行い、随時整備していく。声をかけられた方は嫌がらないように。また、声をかけられなかったからといって寂しい思いをしないように。

<結論を受けて>

上記結論を受けて、さっそくその日のカリンカで話の続きをし、その後も何名かの方と連絡を取りあいました。組織については、以下の方針でいきたいと思えます。異議のある方はご一報ください。

- 1) 代表者…これまでのいきさつ上、中塚義実がさせていただく
- 2) 会 計…自発的意志により、川井寿裕氏にさせていただく(昨今話題の「公務員倫理規定」とのからみもあるが、会計及び名簿担当としてならよかろうとのことです。よろしく願います)

川井氏と相談の上、3月31日に、サロン 2002 の銀行口座を開設しました。

第一勧業銀行板橋支店 普通預口座番号 1 6 1 4 7 5 8

名義は「サロン 2002 代表中塚義実」ですが、「サロン 2002」でも入金可能としていただくことができました。

- 3) 意思決定機関・手順…現時点で保留。近日中に検討会を持ち、案を提示する。ご意見のある方(すでにいくつかいただいている)は、中塚まで願います。

なお、ホームページについては、「わかっている人たち」と中塚で検討を進め、4 月中に方向性を出したい。また、メーリングリストについては、引き続き松下徹氏を管理人として、公式ホームページの契約を延長したい。

以上